

令和2年度 小平市立花小金井小学校 学校評価報告書

学校教育目標 人権尊重の精神を基盤に、人間性豊かでたくましく生きる児童(かしこく つよく やさしい子)を育成する。

目指す学校像(ビジョン)
【目指す学校像】 楽しくて明日を心待ちにする学校
【目指す児童・生徒像】 ①主体的に問題解決に取り組み、自分の考えを表現できる児童 ②健康でたくましい心身を持ち、目標に向かって粘り強く努力する児童 ③自他を尊重し、人の喜ぶ姿を見て喜べる児童
【目指す教師像】 ①児童を愛し、児童の良さや個性を伸ばす教職員 ②授業力を高め、学ぶ楽しさを味わわせる教職員 ③法を遵守し、服務規律を守り信頼される教職員 ④人権意識の高い教職員 ⑤経営参画意識の高い教職員 ⑥親睦を深め協力し合う教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題
 ・教職員のきめ細やかな児童の見取りと情報の共有により、いじめの早期発見、早期対応を図ることができた。また、児童も自己肯定感を高め、相手の良さを認めることのできる温かい人間関係を構築することができた。
 ・日常的に読書に親しむ児童が少なく、学力や情緒面への影響が懸念される。・教職員は組織の一員としての意識をもち、本当の意味でのチームワークを作っていく必要がある。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	○一単位時間の中で指導と評価の一体化を図る。 ○学習規律を身に付ける。	4	4	・学習評価についてのOJTが分かりやすく、授業に活用することができた。校内研究にも関わる内容なので、日頃から職員間で共有していく。また、各教科の年間指導計画と評価計画を活用する。 ・学習規律について、基本的には花小ルールとして徹底し、その意図を児童にも伝える。児童の実態、学習状況に応じて、柔軟に対応する。	4	4	・三者(児童、保護者、学校)の評価が一致している。先生方の努力が報われている。 ・読書の奨励は素晴らしい。いろいろな分野の本を読むことは心の糧になる。今は何でも見る時代。活字を読みながら、児童の心を豊かに耕してほしい。施設面で許されるなら、廊下に図書コーナーやベンチなどを設置し、休み時間などに本を手にし目を通せることよい。 ・読書の奨励が難しい環境であったと思うが、効果的な方法で成果を上げられれば更に良かった。児童に読書を習慣づけるよう、指導を続けてほしい。	・評価の入力を学期末に行うと、印象評価となってしまうことに繋がりにくいので、現行の方法である即時評価即時入力原則とし、各担任が徹底することを続ける。 ・体育や専科で教室移動の際、並んで歩く、私語を慎むなどのルールは、継続して意識し続けさせ、学校全体で守れるようにしていく。引き続き、学校で統一して指導する。
	○問題解決型の授業を実施する。 ○体験的学習の充実を図る。 ○読書を奨励する。	2	3	・互いの授業を見合い、意見交換する機会をもつ。また、授業では、児童が自分なりの解決方法や考え方を導き出せる時間を十分に確保する。 ・ガイドラインに則って、可能な範囲で安全に留置した体験的な学習を行う。 ・読書旬間について、事前に他の行事等の確認や調整をし、子どもが読書に親しむ機会を計画的に確保する。読書旬間中は、朝学習の時間につかり読書することを徹底する。	3	3	・いじめに対して誠意のある対応をされていたと思う。保護者や児童とともに理解し合おうとすることが大切。対応は、個人ではなく組織として毅然とした態度で取組んでください。いじめに委員会や学級指導も必要だが、日々行われる授業において、児童ができるようになった喜びを感じさせて、学びの中から児童同士の信頼関係を築くと共に、先生との信頼関係も育まれるようにしたい。 ・校内の問題に対応する弁護士配置について検討が必要。 ・コロナ禍で異学年交流が難しかったが、積極的に取組もうとされていたと思う。児童は先生方の対応に十分満足している。	・密を避けて、映像でのやり取り等、工夫した体験学習ができた。今後も工夫し、実施していく。人材登用の情報を学校全体で共有する。 ・先生のおすすめ本の紹介や読書マラソンの表彰等で、児童の読書への意欲が高まった。今後もファイルを常に身近に置かせ、年度末に回収し確実に引き継ぎなど、児童に読書マラソンの記録を意識付ける。また、発達段階に応じた読書奨励の方法を検討していく。
健全育成	○全教員で児童の情報を共有する。 ○毎月チェックリストで児童の様子を把握、いじめ防止に関わる授業や学級指導を、年間3回以上実施する。	4	1	・臨時休業もあり、慌ただしい中だったが、チェックリストによる実態調査や学級指導を行った。6月からの学校再開に伴い、コロナ禍での友達とのかわり方に不安を抱える児童がいかにどうかなど、細かく見ていくようにする。とくに、コロナウイルス感染に伴う人権への配慮について、注意していく。	4	2	・校内委員会で話し合うべきことが事前にシミュレーションにされていたと思う。今後も具体的な方策を共有する場として、話し合う事項を事前にまとめ、校内委員会が効果的に運営できるようにする。	・限られた中だったが、なによし班遊びにより異学年交流ができた。今年度できたことを次年度にも生かしていく。 ・6年生が移動教室、表現運動を通してとも成長した。6年生は取組を通じての学びを自分事として進めていけるように指導を続けた。効果的であった。今後も引き続き、児童が学びを自分ごととして生かしていけるようにする。
	○なによし班・クラブ活動など異学年交流の場の充実を図る。 ○話をよく聞き、認め励ますことで自己肯定感を高める。	2	4	・1学期は異学年交流ができる状況になかった。なによし班名簿を9月中旬までに作成し、10月から1回を目安になによし班遊びを校庭で行う。密集を避けるため、半分の班ずつ外に出られるよう、日程を設定する。雨天時の予備日もあらかじめ設定し、遊びの回数を確認する。 ・今後、6年生が異学年の交流やなによし班などで活躍できる取組を設定し、最高学年としての存在意義や成就感をもてるようにする。	3	4	・学校から配信される動画を楽しく、嬉しく、拝見した。先生方が楽しんで取り組まれているので、子どもたちも楽しんで取り組めるのではないかと感じた。学校がいろいろな工夫を凝らして、子どもたちのために動画などの配信をしてくれたことがありがたい。子どもたちや家庭、そして地域と学校をなくしたものになっていたと思う。 ・今年度は特に積極的だったと感じる。難しい環境下で工夫をされている姿勢に、こちらが明るい気持ちになれた。 ・外遊びの奨励など、アンケート結果から、さらに努力する余地があると感じた。	・来年度、児童の実態に応じたパワーアップ朝会、パワーアップカードの内容を考え、計画を立てる。またパワーアップカードの実施に関しては指導者の声掛けによるものも大きい。実施の働き掛けを各担任が徹底していく。
体力向上	○パワーアップ朝会、パワーアップカードに取り組む。 ○外遊びを推奨し教員も週に一度以上子どもと外遊びをする。	3	3	・動画の配信が好評だった。家庭で体を動かす機会となった。 ・2学期以降のパワーアップ朝会の扱い、どうしていくか検討する。 ・保護者アンケートを受けて、パワーアップカードの在り方を再検討する。 ・晴れた日は外で児童と遊べるが、雨の日の取組の共通理解が必要。雨天時も教室内で席について遊ぶことを原則とし、児童が校内を歩き回ることがないように学校全体で指導する。	2	4	・具体的なOJTはとでもわかりやすい。今後も必要なOJTを実施し、内容について具体的によりよいものに充実させていく。 ・スポーツフェスティバルなど、制限がある中で工夫した取組ができた。今後も充実させていく。	
	○運動環境、体育学習に関するOJTを行い、授業改善をする。	4	4	・OJTでは、運動の紹介を今年も行った。その効果として、児童に取り組みさせる活動の幅が広がった。コロナウイルス感染症の拡大防止を意識した運動例の実技と紹介があり、指導の参考にもなった。今後も、制約のある学習が続くので、必要なことに関しては臨時でもOJTを設定し、児童の指導に生かせる体制を整えていく。	4	4	・知識の獲得が中心となる授業の作り方についても学んでいく必要がある。児童に考えさせる授業と並行して、児童が必要感をもって知識・技能を習得できるようなしかけのある授業づくりを行う。 ・研究授業、事前事後、授業公開という形で全学級で実施できた。次年度以降も実施する。	
特色ある教育	○一単位時間ごとのねらいを明確にし、視覚化・焦点化・共有化の視点をもった授業づくりをする。 ○全学級が研究授業を実施する。 ○授業づくり研修を実施する。(年4本)	4	4	・臨時休業で学習できなかった期間や学び残への対応もあった。制約のある中、できる限り視覚化・焦点化・共有化の視点をもった授業づくりをしていく。 ・研究授業について、コロナ禍で実施が難しかった。今後は密を避けるため、中継で参観をする。1月の授業公開では、各分科会での参観と協議会を実施する。 ・授業づくり研修について、指導の参考になった。教員同士で授業について語り合う時間を今後も確保する。	4	4	・HPの内容については、人によってとらえ方が様々。 ・HP配信されていると感じる方もいれば、物足りなさを感じる方もいる。この時期だから学校からの情報を今まで以上に欲しているのではないかと、コロナ禍でいかにこれまでのような安心感のある関係を築けるかにチャレンジし、成果を挙げていると思う。必要な情報は選択し、引き続きお願ひします。	・HPやスクールメールの活用を次年度も引き続き行う。
	○学校だより、HPを活用し、日々の教育活動を各学年、専科、栄養士が月1回以上発信する。	4	4	・ほぼ毎日HPを更新することができた。授業の様子や子どもたちの様子を保護者や地域に伝えることができた。今後も継続して発信していく。また、スクールメールを活用した作業の効率化も必要。今後、各種の連絡やアンケートの集計等、スクールメールを活用していく。	4	4	・教員の業務時間を確保するために月曜日の夕会をなくすなど業務の精選を行ったが、OJTなど、授業を改善するために必要な研修を確保する必要はある。月曜日の放課後の時間を確保するため、OJTについて、回数や内容をさらに精選する。 ・成績提出前は、成績処理の時間を確保するため、B時程にする。 ・会議の時間厳守、SSSの活用、行事の精選、校務分掌の見直しや仕事のバランス、C4tの活用を継続する。	
働業務改善	SSSを効果的に活用するとともに効率の良い働き方を意識することによって、週当たりの在校時間が60時間を超えないようにする。	1	2	・時間外の勤務時間を抑制するために、週に一回、定時退庁日を設定した。 ・休憩時間に会議が食い込むケースがあった。会議は何を伝えるのか、何を話し合うのかを明確に整理して臨み、時間内に取られるようにする。	2	4	・先生方が明るく元気であることが子どもたちに良い影響を与える。良い授業と学校づくりには心と体の健康が欠かせない。会議の数を減らして質を高めるのは難しい事だが、先生方の精神と身体を守ることになる。子どもたちの為に先生方が明るく元気になれるようにしてください。 ・コロナ対応、リモート学習、働き方改革など、先生方の負担は大きい。限られた時間と環境の中で効率化していく事は、どの業界でも難しい。十分努力はされていると思う。	・会議の精査や学校行事の精選等、引き続き継続していく。
	会議の精査や学校行事の精選、ライフワークバランスなどについて、自己申告書に具体的な目標を示し、取り組む。	1	1	・業務内容で削減できるところがあるか、各委員会や校務分掌ごとに見直す。後期の学校評価に削減の案を出し合い、次年度計画で生かす。 ・スクールメールで学校からの用件を伝えることができているが、保護者がクラス全員の個人情報を知る必要もないことから、各学級の連絡名簿を廃止する。	3	3	・オンライン化等、業務改善を願っている。必要な費用等は要求し、予算を獲得してほしい。	